

8月5日(金)発行

MUZA
KAWASAKI
SYMPHONY HALL

ほぼ 日刊サマーミュージック



Hobo Nikkan Summer Muza

8/4 東京シティ・フィルハーモニック管弦楽団
チック・コリア トリビュート Vol.1 ジャズとスペインを巡る音の饗宴

オーケストラと達人たちの セッションを満喫！！

クラリネットの「レジェンド」リチャード・ストルツマンの出演に快哉を叫び、音楽と演奏家仲間、聴き手への愛に満ちたパフォーマンスに酔いしれた。培ったメカニック、テクニクは、音楽に尽くすためにある。ひたむきに、しかし微笑みとユーモアを忘れずに一そんなアーティスト魂を、先月80歳を祝った名匠がステージで実践した。

ベニー・グッドマンのために書かれたコーブランドの粋

なクラリネット協奏曲(1950)とストルツマン独特のハイトーンは相愛だ。摩訶不思議な郷愁を誘う創り、夜の静寂(しじま)を映し出すかのような楽想、そしてジャズのテイスト。いずれも素晴らしい。ストルツマンの要望で舞台中央に置かれたハーブ、ピアノ、そして東京シティ・フィルの弦も彼の至芸に寄り添った。



©N.Ikegami

昨年召されたチック・コリアの傑作「スペイン」～六重奏とオーケストラのための～も公演の主役を演じた。ピアノ宮本貴奈、サクソ小池修、本田雅人、ベース井上陽介、トロンボーン中川英二郎、ドラムス高橋信之介、そして「ゲスト」のマリンバ、ミカ・ストルツマン。これ反則だ。豪華すぎる。さすがジャズにも強いミュージア川崎シンフォニーホールと付度なしに記してお

く。達人たちのセッションを満喫した。拍手し過ぎて手が痛い。

最近いい演奏が続いている東京シティ・フィルが、リムスキー=コルサコフの「スペイン奇想曲」とレスピーギの「ローマの松」で好調ぶりをアピールしたのも嬉しい。コンサートマスター戸澤哲夫。タクトは同フィル首席客演指揮者の藤岡幸夫。

(音楽評論家 奥田佳道)



指揮者、ソリスト、ジャズ6重奏のメンバーで

お客様から

今宵、ミュージアが舞い降りた！片時も飽きさせない演目(こんなにてんこ盛りで良いの？)で驚き通しました。東京シティ・フィルのポテンシャルをマックスに引き出しているマエストロの力量に感服。多彩な表現力、豊かな音色に終始酔いしれた、夢のような時間でした。(50代・ゆうこりん) / プレートクで藤岡先生が言うように、「今シーズンのサマーミュージアで最も派手で豪華なプログラム」でした。「ラテン情緒でありながら分厚い響き」との解説に納得。ミュージアというホールの響だからこそ選曲されておられたのだなど。コンマスとフルート首席のソロがとびきり華麗で印象的でした。バンドが耳元で鳴り響いたのも驚きの体験でした。(？代・極東のシベリウス) / Jazz, Classic, Pops, Rock... 何でも聴く私には至極のプログラム。プレイヤーも超一流！演奏も最高！今日も来てよかった！！(？代) / コーブランド、チック・コリア、R.コルサコフ、レスピーギ全部良かったです。ストルツマンの生演奏聴けて嬉しいです。クラリネットを吹奏楽・大学オケでやってきました。(？代) / 楽しくてわかりやすい藤岡さんの解説、クラリネットのレジェンド、アメリカ、スペイン、イタリアとお腹一杯のコンサートで大満足でした。ごちそう様。(60代・Nob) / フェスタならではの豪華さに酔いしれました(50代・サッチー)



配信控え室から

サマーミュージアは配信も充実！
見どころ・聴きどころや
配信の現場の声をお届けします。

上記レビュー公演のアーカイブ配信は 8/6(土) 正午から開始♪

【出演】

指揮：藤岡幸夫

クラリネット：リチャード・ストルツマン

マリンバ：ミカ・ストルツマン

ジャズ六重奏：宮本貴奈(ピアノ)、井上陽介(ベース)、

高橋信之介(ドラムス)、中川英二郎(トロンボーン)、

本田雅人(サクソ)、小池修(サクソ)

【配信限定コンテンツ】

オープニングインタビュー：リチャード・ストルツマン

休憩時インタビュー：阿部一樹(東京シティ・フィルハーモニック管弦楽団 トランペット副首席奏者)

80歳のストルツマンさんの元気さには驚きました！ローマの松もバト7に続き十八番、カメランも大好きな曲。あの場所(オルガン横)でバンドが演奏するというはミュージアならではの。大迫力のこの曲で皆さん、ストレス解消してください！(From 多摩地区代表)





休日の午前中、モーツァルトに浸るひととき

小菅優さんからのメッセージ:

この度も東響さんとモーツァルト・マチネに帰ってこれることが楽しみでなりません。今回のプログラムは、ハ長調とイ短調、対照的な調を並べ、弦楽器との対話を中心としました。モーツァルトは、ウィーンで書いた最初の3つの協奏曲の一つですがすがしいハ長調の中にほろ苦い色彩を垣間見せ、オーケストラとピアノ両方の無力で盛況な素晴らしい作品。メンデルスゾーンは、彼が若干12歳のときに作曲されたにもかかわらず、技巧的な華やかさと同時にのちのメンデルスゾーンらしい素朴な叙情と天国的な美しさに溢れていて、その想像力の豊かな天才ぶりに目を張るものがあります。東響さんと一緒に作品の奥深くを探り、作品の魅力をより生き生きと伝えられましたら嬉しいです。



小菅優 (ピアノ・指揮)

休日午前中の1時間、モーツァルトの音楽を愉しめる「モーツァルト・マチネ」。モーツァルトの生誕の地・ザルツブルクで開催されている「モーツァルト・マチネ」を元に2010年にスタートし、今年9月に第50回を迎えます。

このシリーズでは、モーツァルト作品に12年間向き合ってきた東京交響楽団による、緻密な演奏をお楽しみいただけます。近年では、モーツァルトに別の作曲家の作品を組み合わせた、新たな発見のある企画をお届けしています。

モーツァルトのメロディは聴き馴染みがあり、さらには短めのコンサートである

ことから、オーケストラデビューや、休日の一コマとしてクラシック音楽を聴きに行く、という体験もおすすめています。

第50回は、国内外で活躍するピアニスト・小菅優の弾き振りプログラム。小菅さんは今回5度目の登場で、これまでも東京交響楽団と息の合った演奏で好評を得ています。

今回は、小菅さんの意向でモーツァルトのピアノ協奏曲を弦楽版での演奏となります。弦楽器とのアンサンブルに特化した「弦との対話」をテーマに、室内楽の延長としてのピアノとオーケストラの呼応をお楽しみください。(事業企画課か)

モーツァルト・マチネ 第50回

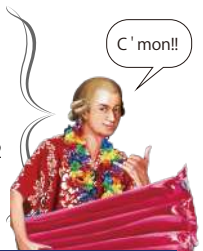
9月3日(土) 11:00 開演

【出演】ピアノ(弾き振り):小菅優 管弦楽:東京交響楽団

【曲目】モーツァルト:ピアノ協奏曲第13番ハ長調K415(弦楽版)

メンデルスゾーン:ピアノと弦楽のための協奏曲イ短調MWW O2

【チケット】全席指定¥4,000 U25(小学生~25歳) ¥1,500



パートナーショップのご紹介

エンジョイ! 川崎!!

Enjoy Kawasaki

夏らしいタイ料理で 気分爽快!

定期的に食べたくなるタイ料理、中でも大好きなパッタイのランチセット(パッタイ、生春巻き、ドリンク、¥950税別)を選びました。タイ料理のランチセットタイ&インド料理のお店ということでドリンクはアイスチャイに。

この日も猛烈な暑さでしたが、もちっとした麺にほどよい辛さと酸味が食欲を刺激、美味しかったです! お店が入っているモアーズはミュージックとは

川崎駅を挟んで反対側ですが、駅周辺はブリッジや地下道が整備されているので、暑い日も雨の日もほぼ屋根の下を歩けるのも嬉しいところ。この機会に近隣のパートナーショップをぜひご利用下さい。

最後に、公演が続くとホールのお忘れものも増えてきます。お食事の後にも公演の後にも、今一度お荷物をご確認くださいね!

(拾得物担当佐藤み)



川崎モアーズ 7F

アジアンスパイスガーデン メラ

パートナーショップ特典 飲食代 10%OFF

※現金支払いのみ/コース・飲み放題は対象外 同伴者も利用可

コンサートと一緒に
もうひとつのお楽しみ!

PARTNER SHOP



↑サービス対象店舗はこのPOPが目印!
スマホからクーポン券を提示するだけ!
クーポン券は7/23~8/11まで
何度でも利用できます。
公演がない日でももちろんOK!

フェスタサマーミュージック公式サイト
<https://www.kawasaki-sym-hall.jp/festa/>

#サマーミュージック
#夏ジャン
で検索 & 投稿
お待ちしています!



Twitter: @summer_muza
Facebook: @kawasaki.sym.hall
Instagram: @muzakawasaki

です。
(舞台写真家 I)

終演まで七千歩近く移動します。一番きついのは一階から三階の撮影場所へ駆け上るときで、機材を持つのでダッシュは一息つかないと撮影ができません。本番中、人知れずミュージックの裏側を動き回って撮った写真を楽しんでいただければ幸いです。

原簿
日刊サマーミュージック
Hobo Nikkan Summer Muza

サマーミュージックでの舞台写真撮影の裏側を少しお伝えしたいと思います。ミュージック川崎シンフォニーホールのように大きな劇場で撮る時に大事なことは、公演の時間の流れと構成を頭に入れ、どの曲の時にどこから撮影するかを決めることです。劇場には舞台袖に二か所二階サイド、三階に正面が撮れる計四か所の撮影ポイントがあります。それぞれ移動して撮影をするまでに数分かかりますので、場所の選定や移動のタイミングを間違えると残念な思いをします。狙い通りの写真が撮れずに一か所で粘りすぎても記録にならず、バランスよく面白い写真を狙って動き回っています。多い時には1ハールから

スタツフ日誌